



<教育・保育理念>

受容・信頼・貢献感

いきよう
ちからいっぱい
じぶんらしく
まっすぐに

やまぼうし

社会福祉法人 市島福祉会
認定こども園いちじまこども園

〒669-4321
兵庫県丹波市市島町上垣138-1
(☎) 0795-85-2330
(fax) 0795-85-2335
<http://www.ichijima-kodomoen.com>

こども園HP



変わりゆく常識 子どもの遊び場

一昔前は山、川、空き地：様々な場所で子ども達は自分で工夫して遊んでいました。現代の子ども達の遊び場は…。

子どもをとりまく環境

ここ20年の間で幼児をとりまく環境が大きく変わったようです。基本的な生活時間や習い事、遊び、保護者の教育観など。様々な事についてベネッセ教育総合研究所が1955年から5年おきに調査を実施した結果が出ています。

『平日に園以外で誰と遊ぶか?』という未就園児の保護者対象のアンケートでは、「友だち」と回答した人が20年前は約56%だったものから、約27%まで減少。一方、「母親」と遊ぶことが多いと回答した人は約55%から86%に増加しました。友だちと遊ぶより母親と遊ぶ子が増えてきているようです。

このような変化の背景にはいくつか要因があるのではないかと思います。こども園などの預かり保育の利用増加により、そもそも平日に遊ぶ時間が減っているのかもしれない。また、習い事の充実も影響がありそうです。公園などの遊び場の数自体に減少はみられませんが、子ども達が安心して遊べる場所は減っているのかもしれない。

昔は、おにごっこやおままごとなど集団遊びが主流でしたが、現在はテレビゲームやポータブルゲーム機が増え、遊び相手がいなくても遊びが完結するものが増えているとも言えます。

こども園の役割

時代の変化とともに、こども園で過ごす時間が長くなり、園の責務も増々大きく

なってきたと感じます。

まずはより安全でより安心できる場でありたい。そして、友だちとともに存分に楽しく遊べる場であり、よりよく成長していくための大事な学びの場としての役割を果たしていきたいと考えてます。

すばらしい自然や温かい地域の人々の恩恵にあずかりながら、おうちの方とともに子どもたちを育んでいきたいと思っています。



“元気クラブさん”との交流は子ども達が大好きな時間です♪



友だちとの遊びの中には楽しいことだけではなく時には衝突も。そこを乗り越える力も一緒に育んでいます。

※参考記事 Conble など

倉橋惣三の言葉

二月

寒い空が雪となった。

埋めて白く、どこを道ともわがち

難い。その雪の上を、難儀がるのは

おとなたちである。

子どもには何でも楽しくないものは

ない。何ものにも、新しい興味と

勇ましい気力とを喚び起こさずに

いない。何ごとに対しても、苦に

したり、しりごみしたりしない。

おとなが、寒さにふるえて冬籠る

此の二月こそ、

子どもとおとなの

違いをしみじみと

思わせる月である。



倉橋惣三(1882-1955)

「日本のフレイベル」あるいは「日本の幼児教育の父」と呼ばれる幼児教育学者。倉橋が展開した子どもの心に徹底的に寄り添い、子どもの遊びや自発性を重視した幼児教育論は、まさしく現代に通じるもの。誘導保育論が特に有名である。